

目的 本研究は性役割意識と服装行動との関連性を検討することを目指して、第1報では性役割についてのイメージ用語の収集からイメージにおける男女間の差異の検討、第2報では収集されたイメージ用語から、出現頻度を基準にして、従来の測定尺度用語をも加味し、81語の性役割特性用語が選択され、特性用語の意味構造が検討された。本報では前報での結果をもとに、服装行動との関連性を検討するための性役割意識測定尺度の尺度項目を決定し、測定尺度の妥当性、信頼性について検討を行った。

方法 本研究の目的に適する性役割意識測定尺度を作成するために、第2報での因子分析結果をもとに、尺度項目として30項目が選択された。これらの項目について男女の学生および社会人計370人に、SD法による7段階評定で反応を求め、その評定値をもとに因子分析および有意差検定を行ない、前報の結果との整合性について検討した。またCronbachの α 係数を求め、測定尺度の信頼性も検討した。

結果 前報の結果に基づき選択された身体特性およびパーソナリティ特性からなる30項目の性役割特性用語について、SD法によって反応を求めた。その評定値から因子分析を行った結果、男性性、人間性、女性性の3因子が抽出され、服装との関連を検討するための性役割意識測定尺度は3次元モデルから成ることを確かめた。また各次元ごとの評定値について、前報と比較するために有意差検定を行った結果、整合性が認められ、尺度の妥当性が確かめられた。信頼性についてもCronbachの α 係数が0.8以上と高い値が得られ、本研究の目的に適する測定尺度が決定された。